

立命館大学建設会

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
都市システム系事務室内
令和5年8月

第37号

会長挨拶

建設会会長
大西 博
昭和五十二年卒



立命館大学建設会の会員の皆様には、ますますご清祥にてご活躍のこととお慶び申し上げます。五月八日の新型コロナウイルス感染症の五類移行を受けて、一気には言えませんが、国内移動やインバウンド観光の復活、大阪の天神祭も四年ぶりに「船渡御」と「奉納花火」を行うと発表しました。各支部におかれましては、この会誌の発行の頃までにも、待ち望んだ対面による総会が開催されていると思います。

さて、現役の皆さんが目指される就職先としては一部ではあります。六月八日に令和五年度の国家公務員採用総合職試験(春)の合格発表がありました。新聞等では、「もともと多く合格者を出した大学は東京大学で一九三人と、この十年で半分以下となり初めて二〇〇人を割りこむ。女性の合格者数は六八三人、三三・七%、いずれも過去最高となった。」と書いています。何よりもわが立命館

大学が七十八人と躍進、第五位となっています。母校立命の優秀な方々が、いわゆる「キャリア官僚」となっていくのが大変うれしい限りです。どの省庁に行かれるにしろ、現場を大事にして、政策立案や裁きが出るだけでなく、包容力のある、靱性の高い幹部になって欲しいなど願っております。私たち、建設業界を取り巻く情勢は、引き続き財政的に厳しい状況であることは変わらないものの、平成三十年から始まった「防災・減災、国土強靱化のための三か年緊急対策」に引き続き、「同五か年加速化対策」が進行しており、既に令和二年度から四年度の補正予算で七割近く進捗しています。この対策が無くなると強靱化が進まなくなるのではないかと懸念がありました。議員立法で提出された

「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法の一部を改正する法律案」＝「国土強靱化基本法の一部を改正する法律案」が五か年加速化対策を延長する枠組みを定めるための改正として、国会で、六月十四日に参議院で採決可決しました。これは、これまで基本計画の位置づけがありました。計画の策定」を位置づけたことです。中期計画では、①計画期間②計画期間内に実施すべき施策の内容・目標、③施策の進捗状況、財政状況等を踏まえ、④のうちその推進が特に必要となる施策の内容・事業規模を決めることとなります。国土強靱化、防災・減災の取組みは、国家のリスクマネジメントであり、強くしなやかな国

をつくること、日本の産業競争力の強化であり、安全・安心な生活づくりです。引き続き、会員の皆様も色々な場面で、元気に活躍されることを祈念いたします。二〇二五年の大阪・関西万博開催まで二年を切っています。入場券が七五〇〇円前後だとか(六月現在)、一九七〇年の前の万博では、当時サラリーマンの平均月収が約五万円が入場料が大人八〇〇円だそうですから、高いのか安いのか。当時、私は田舎の高校一年生で、クラスの誰かが「英会話しにいっくん」と言っていた時代と違い、いつでも外国の方が街におられ、スマホで会話できる現在は、大きく変わりました。皆さん是非、空飛ぶ車の「未来社会」を見に行きましょう。

アフターコロナに向けた学系の動き

都市システム学系 学系長

吉富 信太



二〇二三年年度の学系長を務めております建築都市デザイン学科の吉富です。建設会の皆様におかれましては、日頃より都市システム学系における教育活動へのご協力や同窓会の取り組みへのご支援を賜りまして心より感謝申し上げます。今年の五月に新型コロナウイルス感染症が、五類感染症に移行になったことを受け、大学キャンパスにおいても確実にかつ急速にアフターコロナに向けての動きが出てきました。講義は対面実施が基本となり、中止されていた対面での期末定期試験も再開されるこ

とになりました。ここ数年、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中すつかり当たり前になったマスク着用も任意になり、体感では半数以上の学生がマスクなしで過ごしています。研究室の入退室管理もなく、新型コロナウイルスの感染に関する話題もほとんど挙がることなく、学生たちはコロナ前の日常を取り戻しているように感じます。コロナ禍以前には通例の行事だった都市システム学系の卒業記念パーティも対面実施の方向で検討が進んでいます。運営側の大学院生で構成される学生

部会メンバー全員が、大勢が集まる対面懇親会を未経験という状況で、失われた懇親や交流の場の復活や維持の重要性を感じています。この三年間を通じて対面とリモートそれぞれに長所と短所があることがはつきりしたので、全てをコロナ禍前に戻すのではなく、両者の良いところは残しつつ前向きに変化していく方向性を模索しているところです。

コロナ禍の収束と時を同じくして、社会を変革するほどの新たな技術革命としてChatGPTに代表される生成系AIの話題がメディアを席巻するようになりました。今年の初めには名前も聞いたことのないツールが、たった半年もたたないうちに驚くべき早さで浸透し、すでに学生たちは日常的に使用しているようです。これが当たり前になるのは時間の問題で、大学における教育や入試の在り方、人材育成について

も、改めて見直しが迫られるのは確実です。折しも建設業界においても、人材不足と労働環境の改善等の山積する問題解決が喫緊の課題であり、デジタル化やリモート技術、AI技術などをうまく使いこなして生産性や成果の質の向上を実現することが求められています。今後の学生たちには、こうした技術を使いこなして社会や人々の暮らしを豊かにする人材として、ますます自分で考える力や人間力の育成が重要となっていくのではないかと思います。

学系の学生の大学院進学者数は概ね昨年度と同程度と比較的高く維持できていますが、日本の大学全体の問題でもある博士課程後期課程における日本人学生の減少は大きな問題となっています。立命館大学出身の若手研究者の育成・輩出に向けて教員一同努めてまいります。

今年度は、建設会総会で皆様とも顔を合わせての交流の場に参加できますことを心より嬉しく思っております。今後とも引き続きまして学系の活動にご支援賜りますようお願いを申し上げます。

今年度は、建設会総会で皆様とも顔を合わせての交流の場に参加できますことを心より嬉しく思っております。今後とも引き続きまして学系の活動にご支援賜りますようお願いを申し上げます。

今年度は、建設会総会で皆様とも顔を合わせての交流の場に参加できますことを心より嬉しく思っております。今後とも引き続きまして学系の活動にご支援賜りますようお願いを申し上げます。

今年度は、建設会総会で皆様とも顔を合わせての交流の場に参加できますことを心より嬉しく思っております。今後とも引き続きまして学系の活動にご支援賜りますようお願いを申し上げます。

会員の声

柿沼先生への感謝と思い出



奈良建設会
宮川繁雄
昭和四十六年卒

私は、昭和四十六年卒業で奈良建設会顧問の宮川でございます。

卒業後の昭和六十一年六月に第一回同窓会が発足し、名称を「立命館大学四二会」といたしました。

昭和四十二年に入学した同窓会であり、卒業年が違うので入学時の年を名称といたしました。それ以来、毎年同窓会が開催され、今年六月には第三十八回四二会を挙行することができました。

その中心に居られた方が柿沼先生でございます。柿沼先生は、水理工学の教授であり、非常に人付き合いが良く、ユニークな先生でした。

入学して翌年からは、学生運動が全国的に広がり、十分な授業ができず二回生及び三回生で一部試験が無くなりレポートになった記憶があります。

その後、学生運動も治まり、卒業研究で水理工学を選択し、柿沼先生より色々ご指導をしていただきました。元立命館大学教授の江頭君も同じ卒業研究のグループでした。

その当時は、マージャンをする学生が非常に多く、勉学とマージャンの共生の時代でした。

その後、先生は立命館大学を退官され、愛媛大学の教授に就任されました。

四二会の同窓会には、毎年愛媛県より飛行機で来られ、昼間は有志でマージャンを囲み、夕方五時より同窓会とその後の二次会に出席され、毎回楽しく一日を過ごしておられました。

平成九年に長崎総合科学大学理事・教授に就任され、四二会の同窓会には長崎県より出席されておられました。その後、平成十九年に愛媛大学名誉教授に就任され、平成二十七年に愛媛県より鹿児島県に移住されましたが、四二会には毎年出席いただきました。

立命四二会の節目の事業としての思い出は、平成十八年六月（第二十三回四二会）に「卒業三十五周年記念」として有馬温泉（二泊）へ行ったこと、また平成二十四年六月（第二十九回四二会）には、先生の「春の叙勲の御祝」を開催させていただいたことです。いつも明るく、我々と楽しく会話され話題の豊富な先生でした。

令和二年から令和四年までの三年間は、新型コロナウイルスの影響で四二会を開催することができませんでした。令和四年十月に家族の方から葉書をいただき、先生が八月にお亡くなりになられたことを知りました。令和元年六月の第三十六回四二会でお会いしたことが最後となりました。

四二会の私達を常に優しく見守り、人生の歩みを教えていただき、また明るい笑顔をいつまでも忘れることはできません。四二会に毎年ご出席され、卒業後も三十六年の長き年月において「教え」をいただいたことに、同窓会全員が心より感謝を申し上げます。有難うございました。

インフラと身体のメンテナンス



京都建設会会長
小出美次
昭和五十六年卒

昨年十一月に京都建設会会長を池谷会長から引き継ぎました小出

です。よろしくお願ひします。私は昭和五十六年に理工学部土木工学科を卒業し、同年京都府庁に就職しました。三十八年間京都府庁に勤務し、退職後は京都府道路公社で山陰近畿自動車道という高速道路の建設、管理運営の仕事をしていました。

卒業研究は小林絃士先生にお世話になり、構造物の振動解析のための風洞実験を埃っぽい、暗い部屋で行ったことが懐かしい思い出です。

建設行政の仕事をしてきた関係で、道路、河川を始めとするインフラの計画、建設、メンテナンスに携わる期間が長く、昨今声高に言われるインフラの老朽化対策の中でも、特に橋梁に関する対策について随分と苦心しました。日本全国には約七十三万橋（橋長二m以上の橋）ありますが、二〇三〇年三月には約五十五%、二〇四〇年三月には約七十五%の橋梁が建設後五十年を経過することになります。

五十年という年月を自身に重ね合わせてみますと、中学生という少し世の中のことが分かるようになってから凡そ五十年が過ぎようとする、まさに今の自分が辿ってきた年月に符合します。おはずかしい話ですが、最近になって体のあちこちがくたびれてきています。お医者様のお世話になる機会が加速度的に増えてきました。しかしメンテナンスさえしっかりすれば、まだまだ身体は動いてくれるものです。

橋梁の五十年も同じですね。橋は何も言いませんが、素振りは見せてくれます。五年に一回という点検ではあります、その時に思いやりを持って見てやり、しっかりとメンテナンスすれば、まだまだ現役で役目を果たしてくれると思います。人生百年時代に突入、インフラもまた然りです。

当然ですが、メンテナンスにはお金が必要です。国は令和三年度から五年間で総額概ね十五兆円の予算を確保し、「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」を策定し、激甚化する災害やインフラメンテナンス対策を進めるこ

学生時代のこと



北海道支部支部長
浅利修一
昭和五十九年卒

とじていますが、五年間だけではなく、継続的な予算措置が是非とも必要であると思います。さてコロナ禍の影響が少しずつ薄れてきました。京都建設会では宴席付きの総会を開催し、久しぶりに多くの会員が集まり、懇親を深めています。秋には第二十二回建設会総会が開催される予定です。懐かしいお顔が拝見でき、大いに立命館での学びの思い出を語り合える時でありますことを切に願っています。

一九八四年卒業北海道支部の浅利と申します。学生時代は、立命館大学メンネルコールという男声合唱団に所属し、歌うことにエネルギーを注いでいました。恥ずかしながら、学生時代に土木工学を一生懸命に勉強したという記憶がありません（笑）。私は、小学生の頃はサッカースポーツ少年団、中高とサッカー部に所属していました。音楽には、まったく縁のない学生生活でした。大学の入学式前の三月末に引越したため札幌から京都に出てきました。ある日、大学生協で買い物をするため以学館前を歩いていたところ、メンネルコール新入生勧誘の先輩に勧誘されました。その時、以学館二号で行われていた練習を見て、男声合唱の響きに魅了されすぐ入団を決意しました。メンネルコール

は、戦後間もない殺伐とした状況の中で音楽に対する情熱を持っていた当時の学生たちが集り、昭和二十一年十月二日にその前身である立命館大学交響合唱団として誕生しました。皆様は、入学式や卒業式でそのハーモニーを聴いたことがある方もいると思います。定期演奏会、関西六大学合同演奏会、明治グリークラブとの交換演奏会、演奏旅行等一年間に大きな演奏会がいくつもあり、これらのコンサー

トでの演奏を目指し、約八十名の仲間と週四回の練習を四年間こなしてきました。大学卒業後三十歳代中頃までは、一般の混声合唱団にも所属していました。また、十年ごとのメンネルコール創立の節目の演奏会（直近では七十周年記念演奏会）には、京都コンサートホールにおいて全国より集まる仲間とOB合唱団としてステージで歌いました。実は、そのメンネルコールも団員の急激な減少により、現在運営が非常に厳しい状況になっています。理由は様々あると思いますが、時代や価値観が変わってきたということでしょうか。また、コロナの影響もあつたと推察されます。現在、OBが立命館大学メンネルコールOB合唱団として精力的に活動しています。私は参加できませんでしたが、二〇一六年には京都市、チェコプラハ市の姉妹都市二十周年を記念として、チェコ日友好協会の要請によりプラハでの演奏会を実施しました。また、日本伝統文化振興財団により合唱曲CDを制作しビクターより販売しました。

コロナ禍の三年間に最も影響を受けたものの一つに、ライブコンサートやスタジアムでのスポーツ観戦ではないでしょうか。現在は、スマートフォン等により容易に音楽や映像が手に入る時代ですが、音楽やスポーツをリアルに体感しなくては、その価値・醍醐味が分からないとすごく感じます。学生時代に多くの仲間と音楽を通じた様々な経験は、何にも代えがたい貴重な経験だったと思います。コロナ禍が癒えやつと元の生活に戻りつつある今、これからの人生において、人との出会いや音楽・スポーツ観戦をより一層楽しみたいと思っています。建設会北海道支部の総会が、七月に四年振りに開催予定です。建設会の皆様に久しぶりにお会いできることをとても楽しみにしています。人と人との繋がりが、ご縁を大切にしたいと思います。

あつという間に三十五年余り



関東建設会
平田浩太郎
昭和六十一年卒

私は昭和六十一年理工学部土木工学科を卒業しました。

六号館近くの衣笠食堂のカレー、第二体育館のラーメン、JBLのスピーカーが奏でるジャズ喫茶など、四十年近く経った今も当時の大学生活が昨日のように思い出されます。

当時、私は製図が苦手なT定規と製図版で課題の図面を描いていましたが、今の学生はやはりCADで描いているのでしょうか？カラス口やロットリングと言っても知らないと思いますが、手がインクで汚れたり、失敗してケント紙を削って修正していたのも振り返ってみるといい思い出です。

大学卒業後に道路会社に入社しました。動機はそれこそ地図に残るものを作るといふ事に憧れがあったからです。

いざ入社してみると、休みも少なく夜間作業も多い大変な職場環境で何度か辞めたいと思うことがありましたが、ものが出来ていく喜びや面白さが勝っていたので続けることができました。

入社七年後、現場代理人として道路の新設工事を任せられ、ようやく地図に短い一本の線を入れることができました。竣工検査後の打ち上げはとても楽しかったことを今でも覚えています。

四十二歳の時、現場技術職から営業職に変わり、縁あって関東建設会なるものがあることを知りました。参加してみると活気に溢れる諸先輩方から色々な経験談やアドバイスをいただき有意義な時間を持つことができました。また大学卒業後初めて校歌を歌ったのも建設会でした。

主に東京、横浜など関東圏で働いていましたが六年前に北海道勤務を命じられ五年間北海道で勤務をいたしました。福岡県出身の私

からすれば、北海道は外国に行くような気持ちでした。北海道は大きく道内の移動に飛行機を利用することもしばしば。近場といえども鉄道網があまり発達していないので、車で片道二、三時間は当たり前で一日五時間以上運転することもありました。郊外は広大な自然が広がり丹頂鶴、大鷲、キタキツネやエゾ鹿などの野生動物に出会うことができます。牛、馬、羊などは放牧されており、人口よりも牛の数の方が多かったです。また道内各地で美味しい食べ物も頂き北海道グルメを堪能しました。このような貴重な体験ができたのも全国の道をつくる道路会社に入社してからこだったと思います。

北海道に知人がいない私は、北海道建設会の会長を訪ねていきました。コロナの影響で思うように集まる事が出来ませんでした。何度か会合に参加させていたいただきました。その際も旧知の仲のようにとても暖かく迎え入れていただき立命館の絆の強さを感じました。

卒業三十七年目を迎える私の仕事は、後輩たちに仕事の面白さ、やりがいやを伝えていき我々が社会に果たす役割、義務などをしっかりと理解させていくことだと思っています。

関東建設会においても若い卒業生に加わってもらい、仕事に対する思いを分かちあひ、学校での思い出を懐かしんだりして、一緒に大声で校歌を歌いたいものです。若い卒業生の参加をお待ちしております。



広島県支部代表幹事
福馬啓人
昭和六十一年卒

環境問題について

昨年六月から、島根原子力発電所の構内で仕事をしています。二十五年ぶりの松江勤務は、幼かった我が家の子供たちの記憶と共に、非常に懐かしく思い出されます。松江から日本海を望むと、美しいリアス式海岸と、冬の空気の澄ん

だ日には、その奥に隠岐諸島が。アレー?! 見える! 春でも夏でも秋でも、いつでも、週に何回かは隠岐諸島が見えるではないですか! 二十五年前は、あんなに見えなかったのに、空気が澄んできたということでしょうか。:

まあ、我々の工事に際しても、環境問題は「やましく」言われて頑張ってますもんね。

とここで、多くの兵庫県民に愛されている「イカナゴのくぎ煮」のご存知ですか?これが近年不漁になって、その原因が「海水がきれいになりすぎてイカナゴが食べられるプランクトンが減った」ことによると言われているのです。排水規制の強化で、海中の窒素やリンが減り、プランクトンの繁殖が阻害されていると。兵庫県では、なんと二〇一九年に、「工場や生活排水に含まれる窒素やリンの下限値」を定める条例改正を行ってあります。きれいにし過ぎてはいけません。きれいな海から、豊かな海へ。:

同じような話は、浜名湖のアサリの不漁にも関連しているのかもしれない。地元自治体は、排水基準を緩めることに、今のところ慎重姿勢のようですが。:

水産資源の減少を受け、排水の規制緩和によって漁獲の回復を目指す取り組みが全国十一県で進んでいるようです。

いずれにしても我々がやるべきは、科学的知見に基づく規制を適切に順守することなので、今後もしっかりやりついでいこうと思います。



建立会
柏木勇人
昭和六十二年卒

三十五周年を振り返って

建立会会長となりました柏木です。平成元年に大阪市に入庁しました。立命館からは十数年ぶりの大阪市への入庁ということで多くの先輩方に大変歓迎していただき、建立会にも参加させていただきました。先輩方が活発に同窓での活動をされていた間は私も参加させ

ていただいていたのですが、次々と先輩方が卒業していくにつれ、段々と縁遠くなっていくところ数年前に久しぶりに声掛けをいただきました。これまで何のお役にも立っていないものの会長にと推薦いただきました。微力ではありますができることはさせていただきます。

よろしく願います。

大阪市役所では建設局を振り出しに計画調整局、都市整備局と区画整理事業を中心としたまちづくりにかかわってまいりました。令和三年度からは現職となる西成区に副区長として、まちづくりだけではなく教育、福祉など様々な都市問題に取り組みんでいます。役所生活も三十五年と長くなり、これまで様々な事業に参加し幅広い経験をさせていただきました。大阪市の職員です。当然大阪市内の各種事業に取り組みできたものの、例外となるのは東日本大震災の復興支援です。地震発生時はWTCビル、現在の大阪府咲洲庁舎の中層階での勤務でした。恐怖を感じ

るほどの大きな揺れに見舞われました。震災後、東北での復興事業の検討が始まり、当時は区画整理課長をしていました。復興事業への協力について調整をする事となりました。宮城県石巻市と岩手県釜石市を中心に復興支援として多くの職員を派遣することとなり、震災直後から十年間の支援期間で四回両市を訪問しました。十年間という短い期間で両市とも多くの事業によって災害に強い新しいまちが整備されてい

ます。復興事業に参画された多くの方の活躍による素晴らしい成果です。

災害にはいつ見舞われることになるかわからないものです。できるだけの備えをして被害を小さくしたいものです。西成区にはいわゆる密集市街地が広がっており、まちの防災性を高めるための各種取り組みが進められています。より一層のスピード感を持って進めていかなければならないと感じています。

同窓の皆さんとお会いできる機会を生かして様々にお知恵を拝借してよりよいまちづくりを進めたいと思います。

いと思います。つらつらとこれまでの経験や感じていることを書き連ねてしまいました。今後ともご指導のほどよろしく願います。



岐阜県建設会
長屋昌信
昭和六十二年卒

ここまでの歩み

昭和六十二年三月に理工学部土木工学科を卒業して、岐阜県の西濃にある建設会社に入社し三十六年になります。

学生生活一年目は、左京区下賀茂の旧家の二階に下宿させていただきました。此処に決めた経緯は、親の知人のついでで紹介していただき、学校にも近く京都駅にも近いとお話で、今から考えれば、そのような立地条件は存在しないはずですが、下見もせず決めたことを、後に後悔することになりました。家主さんは、華道・茶道の御師匠さんで、とても厳格な方でした。歴代の間借り人は、良く学び、僕も良い生徒さんが続いたようで、僕は一年で退去させていただきました。

二年目以降は、右京区嵯峨広沢池の近くにある寮のような下宿に代わりました。四畳半の部屋のほかに、共同トイレ、キッチン、マキ焚きのお風呂が付いていて、その上寮長のような応援団の先輩がお見えになり、ほとんどプライベートがない生活をスタートさせました。先輩が中心となり下宿生活を束ねて、様々なイベントを企画し、楽しい学生生活を送ることが出来ました。それを見守っていただいた大家さんには大変お世話になりました。このお方は、応援団の演舞で、寮歌を担当されており、今でもこの歌に触れる機会があると、大変懐かしく思い出します。

このような学生生活を送った私は、冒頭にあります地元の会社就職するも、学校で何を学んできたのかと、言われるくらい何もできなかった新入社員でした。その時にしかできなかった勉強をして

きたのだと過去の事は良し、社会人になってからは、土木について一生懸命学びながら、現場に携わってまいりました。この地域には多くの河川が流れ、当時は改修工事や排水機場の工事など、非出水期での工事が大変多くありました。私が配属された部署は、その河川工事担当部署で、夏は休んで、冬稼ぐという偏った働き方をする職場でした。当然冬場は、日曜休みも無く、日々夜遅くまで残業して書類作成し、早く終われそうない日は、他現場の応援に行かされ、一日の仕事の終わりが見えない若手社員にとっては、精神的につらかったと思います。在校時には、体育会合気道部に所属し、体力には自信がありましたので、何とか続ける事ができましたが、半年で一〇キロほどの体重が失われ、産業医さんを心配させました。

その後数年かかって、やらされることから、やらないといけない事へと意識が変わり、権限と責任が増え、それに伴って、完成時の達成感が大きくなりました。家庭を持ち、子供が出来、地図に残る仕事をお父さんはしているのだと、子供に言ってみても、単身赴任や、子育ての関与が少なかつたためか、同じ道を進むことはないよう少しく寂しく思います。このまま現場一筋で思っていたところ、十五年ほど前に名古屋支社に転属となり、大きく環境が変わりました。建築の民間工事を中心の拠点で、公共工事に慣れている土木系の技術者には、発想を大きく変える必要がありました。お客様より仕事を頂くことがいかに大変なのか、慣れない営業会議の参加や、受注の前の原価削減の提案や折衝など、様々な事を学び、再び三年ほど前に岐阜に戻り、今年還暦を迎えます。まだまだ仕事を続けていかなければ、生活が成り立ちませんのでこの先、建設業のDXや、AIに取り残されたい様取り組まなければと思っております。

岐阜県建設会には、平成二十七年ころより参加させていただき、年々甘んじて参加させていた。諸先輩方に甘んじて十分な働きが出来ていない。え、コロナが拡大していた時

は、様々な活動を自粛しており、お会いする機会がございませんでしたが、引き続きご指導頂きます様宜しくお願い致します。

最後になりますが、立命館大学建設会の益々のご繁栄と、皆様のご健勝をお祈り申し上げ、結びとさせていただきます。

着任の挨拶



環境都市工学科
講師
伊藤真一

この春より、環境都市工学科、地盤システム工学研究室に着任しました伊藤真一と申します。この度は、ご挨拶の機会をいただき、誠にありがとうございます。

私は地盤工学を専門としており、豪雨時の斜面崩壊などの防災に関する研究を行っています。研究の方法としてデータサイエンスの活用に興味を持っており、データ同化や深層学習による斜面崩壊に対する危険度評価を試みています。その関係で、立命館大学歴史都市防災研究所にもメンバーとして参加しております。これまでデータサイエンスの適用先が防災分野に限られていたが、この春から小林泰三教授と共同で研究室運営をさせていただけることになりましたので、今後は防災以外の分野にも研究の幅を広げていきたいと考えています。

私は岐阜県で生まれ、二〇一三年に大阪大学工学部地球総合工学科を卒業後、二〇一五年に同大学院工学研究科地球総合工学専攻の博士前期課程を修了し、二〇一八年に同大学院の博士後期課程を修了しました。在学中は小田和広准教授(現・大阪産業大学教授)のもとで、データサイエンスを活用した斜面防災について学びました。その後、二〇一八年の四月に鹿児島大学工学部海洋土木工学科(現・先進工学科海洋土木工学プログラム)に助教として着任し、立命館大学にも勤務されていた酒匂一成教授のもとで、研究を行ってき

ました。この間に、立命館大学の先生方には大変お世話になりました。学生時代には深川良一教授が委員長を務める地盤工学学会関西支部の委員会に参加させていただき、深川先生を始め、小林先生、藤本将光准教授から多くのことを学ばせていただきました。また、野村泰稔教授にもデータサイエンス関係の委員会でお世話になり、解析手法について教えていただきました。鹿兒島大学に赴任した後も深川先生と酒匂先生の関係で、立命館大学主催のベトナムで行われた国際共同セミナーに参加させていただきました。このように立命館大学の先生方には以前からお世話になっておりましたので、この度、立命館大学に就任することができ、大変嬉しく思っています。

着任の挨拶



環境都市工学科
講師 沈 尚

今年の四月より、環境都市工学科（環境分子微生物学研究室）に着任しました沈尚（シン・ショウ）と申します。

微生物（細菌やウイルス）を専門とし、現場調査・ラボ実験・遺伝子解析を用いながら水圏炭素循環における微生物の動態について研究をしています。最近では、世界的な課題となっている薬剤耐性菌問題についても取り組んでおり、琵琶湖や流域内での薬剤耐性遺伝子の分布を明らかにしようとしています。

二〇一五年に京都大学工学部地球工学科を卒業後、同大学院の修士・博士課程に進学し、二〇二〇年に博士（工学）を取得

しました（指導教員：清水芳久教授（現・名誉教授））。研究室は天津市の流域圏総合環境質研究センター（天津プリンスホテルや天津市水再生センターのすぐ近く）の隣にあり、在籍中はもっぱら琵琶湖調査に出かけていました。滋賀県琵琶湖環境科学研究センターや、京都大学生態学研究センターの琵琶湖調査船にも同乗させていただき、ウイルスや細菌（病原性ではない！）の顕微鏡観察や遺伝子解析を行っていました。

博士取得後は、同研究室や国立環境研究所琵琶湖分室でポストドクや日本学術振興会特別研究員PD（受入研究員：霜鳥孝一氏）として、引き続き琵琶湖の研究を続けてきました。研究を進めて行く過程で、世界的な課題となっている薬剤耐性菌問題についても技術展開できることが分かり、ポストドク時代は研究対象を琵琶湖流入河川や病原性のウイルス・細菌にも広げました。しかし環境中での拡散状況などについてはまだまだ未解明であります。

学部四回生で研究室に配属されてから、流域圏総合環境質研究センター、国立環境研究所琵琶湖分室とずっと琵琶湖の側で研究を続けることができました。そしてこの四月より、びわこくさつキャンパスにて現職に着任することができ、引き続き琵琶湖について研究できることをとても幸せに思います。日本を代表する湖の琵琶湖で、湖沼研究で世界を牽引できるよう精進したいと思えます。採用に関わられた先生方に心から感謝いたします。

近年はChatGPTに代表されるようなAIの発展がすさまじく、私も少しずつChatGPTを教育や研究活動に取り入れ、その便利さに衝撃を受けています（この文章はちゃんと私が書いています）。同時に、学生の皆さんにはこれらを上手に活用できるような人材になってもほしいと強く意識するようになりました。今後、学生達が思考力や創造力を養えるように、そしてそれらの力を社会で存分に発揮できるように、教職員を始め、立命館大学に関わってくださる皆さまと連携しながら、学生達が未来へ羽ばたく手助けをして参ります。今後ともどうぞよろしく願っています。

立命館大学技術士会の活動内容の紹介とお願い

立命館大学技術士会は、平成21(2009)年12月に立命館大学出身者で技術士資格を保有する校友により設立され、その活動は14年目を迎え、現在の会員数は約170名となっています。

【活動内容の紹介】

- 立命館大学理工学部卒業生への技術士受験指導を実施。結果、建設部門、上下水道部門、機械部門、総合技術監理部門に、延べ44名の技術士を輩出。
また、技術士資格挑戦者への支援として、毎年3月より受験ガイダンスおよび受験講習会を4回実施。さらに、11月以降で口頭模擬試験を数回実施。
- 本学の教育活動に協力し、学園の発展に貢献。
環境都市工学科の授業担当講師として、技術士制度および技術士資格を取得するための過程について講義し、将来受験する技術士第二次試験について、実際に例題を取り上げて解説。また、環境都市工学科の授業を活用し、1回生には『めざせ！技術士』、同3回生には『立命技術士懇談会』と題してJABEE制度や技術士の職務と役割について講義し、学生達に受験意欲の向上を図ると共に、卒業後の技術者としての社会活動のあり方や実社会での経験談を披露。
- 地域及び社会活動への技術的支援や未来の技術者への助言を発信。
その一環として令和4年1月に『土木技術者が語る未来』～今、伝えておきたい技術者の心～と題して電子書籍を発刊。立命館大学卒業生の土木技術者達の力作です。

【技術士会からのお願い】

- ★当技術士会の活動にご協力いただくためにも技術士資格取得者の方々は、当会に技術士資格の保有情報を下記事務局までお知らせください。
令和5(2023)年6月 立命館大学技術士会幹事会
事務局連絡先：企画・窓口担当E-Mail：rits.kikaku.mado@gmail.com
立命館大学技術士会ホームページ：https://alumni.ritsumei.jp/gijutsusikai/

建設会総会・特別講演会・懇親会開催

第22回建設会総会・講演会・懇親会を下記の要領にて開催いたします。ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、万事先お繰り合わせの上、多数ご参加を戴きますようお願い申し上げます。

記

【日時】2023年10月15日(日) 14時～19時

【場所】京都タワーホテル
[京都市下京区烏丸通七条下ル JR 京都駅正面]

【会費】10,000円

【次第】14:00～総会 15:20～特別講演会 16:30～懇親会

- 参加申し込みは前納とさせていただきます(9月15日締切り)。
- 同封の総会専用払込票にて、郵便局よりお振り込み下さい。

※詳細につきましては、[こちらのお知らせ](#)をご参照下さい。

事務局より

お知らせ

■会員登録データ

建設会会員名簿のもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、年会報の送付、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付いたしました年会報に同封されている「会員登録データ」をご確認いただき、修正や変更等がございましたら8月末までに建設会事務局までご連絡下さい。

また、今年12月初旬に「2023 会員名簿 [CD-R版]」を発行予定です。名簿は、会費を納入いただいている会員を対象に送付させていただきます(原則2年に1度の発行ですので「2022年度・2023年度分」のように連続して2年以上の会費納入の会員、ならびに終身会員に送付させていただきます)。

▶名簿お取扱いについて

名簿は、会員の皆様の大切な個人情報に掲載しております。名簿をお持ちの会員様は、その保管およびお取扱いには十分ご注意くださいようお願い致します(転売厳禁)。

なお、ご不要になった名簿につきましては、お手数ですが焼却あるいはシュレッダー処分をしていただけますようお願い致します。

できます)。

なお、2022年度分の会費をまだお納めでない方は、同封の振込用紙にて2年分の会費(2022・2023年度分:6,000円)を納入いただきますと、発行と同時に名簿をお送り致します。

■建設会年会費ご納入のお願い

立命館大学建設会は皆様の年会費で運営されています。

2023年度会費のご納入をお願い致します(年会費:3,000円)。

なお、銀行からのお振込も可能です(ゆうちょ銀行109(イチゼロキユウ)支店、当座0000884)。お振込の際、お手数ですがお名前の前に10桁の会員コードをご記入いただくか、お名前・会員コード・お振込日を下記アドレスまでご連絡下さい(振込手数料は申し訳ございませんが、ご負担願います)。

建設会事務局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部都市システム系事務室内(担当:山元)
TEL:077-561-4911 FAX:077-561-2667

https://ritsumei-kensetsukai.net/
E-mail:kenstkai@st.ritsumei.ac.jp
会費払込郵便振替口座:02 大阪 01080-1-884

※なお、8月11日～20日まで、大学一斉休暇となります。何とぞご了承下さい。